

新たな地域ブランド創出を目指して創業した企業組合への伴走型支援

| 事業者 | 支援機関 | |
|-------------------------------|--------------|------------|
| 株式会社スルーエイジ (旧企業組合スルーエイジ農園) | 宮城県中小企業団体中央会 | 宮城県よろず支援拠点 |

企業の概要

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県山元町で、新たな「地域ブランド」の創出を目指してイタリアントマトの生産及び加工品販売を行う。平成25年5月に企業組合として創業、平成28年5月に株式会社化。従業員8名。

支援の概要

◆ 支援の経緯

宮城県中小企業団体中央会（以下「中央会」）が開催した「企業組合設立セミナー」に同社創業メンバーが参加。企業組合による創業を中央会が支援し、また、中央会の紹介により宮城県よろず支援拠点の支援に繋がる。

◆ 経営課題へのアプローチ

① 創業支援（中央会）

事業化にあたり、創業メンバーが協働して事業に従事する本事業には、企業組合が適していると判断。創業時に必要となる農業設備の取得には、「創業補助金」の申請・活用を提案。認定支援機関として、事業戦略の提案、事業計画の策定支援を実施。

② ネットワークを活かした伴走型支援（中央会）

創業時より継続的に面談、巡回訪問し、課題、段階に応じた提案、助言を実施するとともに、中央会のネットワークを活かして、各種支援施策の提供、専門家派遣制度の活用、販路開拓支援等を実施。連携している宮城県よろず支援拠点の活用を提案。

③ 中期計画の策定支援（よろず支援拠点）

創業期から一層の成長を目指すべく、戦略的な活動を展開していくための5年程度の中期計画の策定を提案・支援。

◆ 支援成果

① 企業組合によって創業・事業の立上げに成功。

② イタリアントマトの生産、加工品開発（ジュース）を「このゆびとまと」として展開することにより新たな地域ブランドとして確立。

③ 中期計画に基づいた戦略的な事業展開。

注目ポイント

◆ 企業組合による創業

企業組合は設立が比較的容易で自由度も高く、本件の事業化には適していた。組合の設立支援を多く手がける中央会が、定款や事業計画の作成支援等、創業期に必要な支援を適切に実施した。

◆ 自社ブランドの確立

自社商品を原材料としたオリジナルの加工品を開発・販売することで、自社ブランドが確立した。